

おおま

No. 75
岬の光
平成24年11月1日発行

議会だより



工事再開へ



9月定例議会
主な内容

○平成23年度 歳入歳出諸決算を認定

P 2

○平成24年 第3回定例会

P 3

○一般質問

P 4～7

○報告・編集後記

P 8

平成23年度

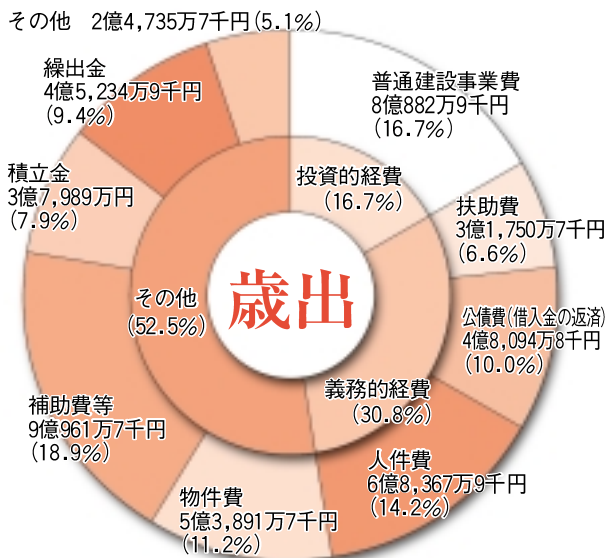
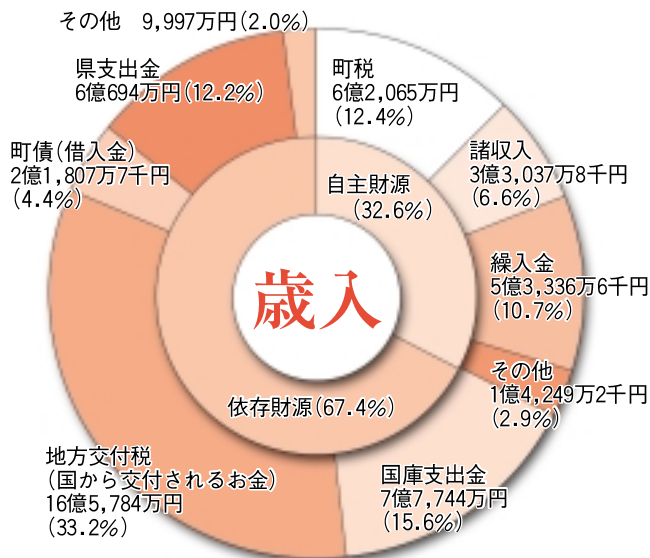
歳入・歳出諸決算



平成23年度地方財政状況調査より

歳入 49億8,715万3千円

歳出(性質別) 48億1,909万3千円



一般会計の内訳

借金(町債)・貯金(基金)の状況

【一般会計】

	総額	町民一人あたり
町の借金(A)	38億879万2千円	61万7千円
借金に対する国の援助(B)	32億8,042万4千円	特定の借金に対しては国から交付税で補てんされます
実質の借金(A)-(B)	5億2,836万8千円	8万6千円
基金(貯金)	37億3,352万5千円	60万5千円

※平成23年度決算の状況(人口:6,173人で計算)

【予算計上内訳】

平成23年度

(単位:千円)

	当初予算	専決処分	6月補正	専決処分	9月補正	12月補正	1月補正	3月補正	専決処分	繰越額	合計
一般会計	6,029,003		21,272	793	124,130	125,648	-1,330,000	-113,045	139,547	106,595	5,103,943
国民健康保険特別会計	991,396				-5,607	34,962		3,749			1,024,500
海峡保養センター事業等特別会計	208,792		-300		5,022						213,514
老人保健特別会計	1,126	34									1,160
後期高齢者医療特別会計	44,105				483			-394			44,194
介護保険特別会計	450,667				1,421	3,054		476			455,618
下水道事業特別会計	231,469		3,007		-24,400	5,441		101		19,600	235,218

平成24年 第3回定例会

9月7日開会～9月14日閉会

平成24年度 補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ1億8885万9千円を追加し、予算総額64億8528万2千円とした。

国民健康保険 特別会計

歳出の組替補正であり、特定健康診査等実施計画策定業務委託料に340万6千円を予備費より組替計上。

海峽保養センター 事業等特別会計

歳出の組替補正であり、消耗品費に46万4千円、光ファイバー網整備費用12万6千円を追加、各機器リース料

78万9千円を減額し組替計上。

介護保険 特別会計

歳入歳出それぞれ218万1千円を追加し、予算総額4億5070万円とした。

下水道事業 特別会計

歳入歳出それぞれ47万7千円を追加し、予算総額2億6095万2千円とした。

大間・函館航路フェリーの設置及び管理に関する条例

建造中の大函丸が平成25年4月完成見込み、指定管理者制度により運航予定しているもので、次の11項目について定めるものである。

趣旨・設置・指定管理者による管理・指定管理者が行う業務・指定管理者の指定手続等・運航日及び運航回数等・利用料金・乗船の制限・損害賠償・原状回復義務・委任

表彰条例の 一部改正

過去の表彰実績等を精査した結果、寄附をした個人又は団体への表彰基準額について改正するものである。

平成23年度 健全化判断比率

(単位：%)

実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
△7.1% (15.0%)	△13.6% (20.0%)	14.2% (25.0%)	△27.4% (350.0%)

備考
・カッコ内は、当町の早期健全化基準比率である。
・実質収支又は連結実質収支が黒字である場合、「実質赤字比率(%)」又は「連結実質赤字比率(%)」は負の値で表示している。

【健全化判断比率】とは、団体の財政の健全度を公営企業会計や一部事務組合、第3セクター等を含めて示すものです。
「早期健全化基準」「財政再生基準」が定められています。
大間町の財政の健全度は、指標基準を下回っていますので、概ね良好と判断できます。

教育委員会 委員の任命

賛成8 反対1



川端亜喜男氏

賛成7 反対2



宮野成厚氏

※両氏とも賛成多数をもって同意

陳情

地球温暖化対策に関する「地方財源を確保、充実する仕組み」の構築を求める意見書の提出を求める陳情書。

採択

一般質問



加藤正喜 議員

フェリーにか けるこれまでの取 り組み。新造船 にかける思いは

質 問

プロポーザル入札の実施、造船会社の決定、起工式そして来年の春には新造船の就航を迎えます。これまでの取り組みと、新造船にかける思いをお聞かせいただきたいと思います。



答 弁

議会の皆様方、住民の皆様方のご理解をいただき、新造船の発注をさせていただいたことについて、心から感謝を申し上げます。

この地域が、今後も活性化していく上で、また地域住民の利便性の向上を図る上で是非とも必要である航路というところで、議論を重ね現在に至っているという事です。この船をいかに活用していくか、利用率を上げていくか、ということが、今後安定した

航路として、恒久的な運行ができるものと思っております。

今後中長期の まちづくりは

質 問

東日本大震災により、建設中の大間原子力発電所の工事が中断したままの状態にある。固定資産税を核とした中長期のまちづくりを描いてきたが、厳しい状況が待っているが。

答 弁

プルトニウムを再利用する大間原発、この計画は核燃料サイクル事業とともに重要な位置づけを占めるものと確信している。この計画が堅持されていくこと、さらに強く訴えていきたい。議会の皆様方も是非とも行動を共にし、こ

の事業が達成されるよう力をいただきたい。

公約の完成度は 何割か

質 問

1期目の立候補の公約として、のびのび・生き生き・悠々と暮らせるまちにしたい、とありましたが、この思いの完成度は何割と考えるか、もし完成してないとするならば今後どうしたいか。

答 弁

地域住民が、のびのびと生き生きとそして悠々と暮らせるために
○教育面では
・学校施設の充実
・コミュニティ施設の整備
・児童公園の設置
・町単独の臨時講師を採用

○健康で長生きできるように

- ・健康診断の無料化
- ・乳幼児の予防接種の無料化
- ・子宮頸がん予防接種の無料化
- ・中学校卒業までの医療費の無料化

○産業面では

- ・ナマコの種苗
- （現在1万個の放流）
- 観光面では

新造船を活かした観光に主眼を置き、観光まちづくり会議を立ち上げた

次の選挙に 立候補するのか

質 問

先程からの再質問の中で、進めて参りたい、対応を考えて参りたいとありますが、任期はあと3か月。この12月の町長選挙に立候補するかどうか。

答 弁

今まで、2期務めさせていただきました。やれたこと、やれないことがあり、まだ課題として残されたものがたくさんある。次期においてもそのことに邁進できるようにしたい。

今後も町の活性化、発展に向けた政策を展開できるように精一杯致したい。



一般質問



岩泉盛利議員

小奥戸傾斜地上部の防災公園、避難場所へ行く道路整備は

質問

長年に亘り、この道路整備についてお願いをしてきたが、昨年、地権者から了解ももたらったということで、担当課長に指示をしたということだったが、いまだに予算や計画がなされないのはなぜか。

答弁

道路という形での整

再質問

町長の答弁において、1億円という数字がだされましたが、疑問に思うところです。私はじめ、我々野党議員といわれている私達の言葉を聞く耳を持たないのか、持っているのかどうか、もう一度この道路整備についての答弁をお願いしたい。

答弁

与野党という思いの中で、私が政策を展開していることは一切ない。

再質問

1億の説明がないが？私の考えでは、1000万か、2000万でできると思うが、積算をどのようにしたのか。

住民の安全と安心を守るための対策は講ずる。

答弁

勾配を勘案しながらルートをつくる形の積算で、測量等で2000万円、用地買収費900万円、本工事費7600万円という机上の積算です。

再質問

1億かかろうが2億かかろうが人命を守るためには整備するべきだ。

答弁

再検討をしながら進めさせていただきます。

大間原発の工事再開遅れによる事業計画の見直しは

質問

8月8日北村社長来庁の際、大間原発の工事は必ず進めるとい

ながらも、国や政府の考え、動向を見ながら再開の決定をしたい、ということでした。

エネルギー調査会の中で、環境調査会の纏めとして、2030年代には原発ゼロを目指すと、新増設はしない、といわれている中で、この大間町をいい方向にもっていくために、今計画されている事業や財政の見直しを今から考えるべきと私は思うが、町長の理解ある答弁を期待します。

答弁

私は、一貫して工事の再開を求めて参りました。議会の皆様方も同じでありまして、非常に心強く思っているところです。

質問

電源地域との協議ということが今までになかったという現実と、大間原発は新規でない、すでに着工し、進

捗率40パーセントという中であって、きちつと事業を実施するべきという国会議員等もおられる。我が国のエネルギー政策、安定した電力の供給ができる様な形をつくってもらいたい。今までの国の政策に協力し、それを推進してきた地域として当然のことであり、それを更に強く訴えていきたい。

その中で、計画の見直し、財政の見直しについては、今現在の財政状況等を踏まえ、また、地域の要望等踏まえ必要だと認識している。

今、発電所をきちつと運転する、ということに力を注いで参りたい。



一般質問



野 崎 信 行 議員

1 学校給食センターを建設せよ

答弁 建設計画はない

2 まぐろ大使を任命せよ

答弁 今後検討する

3 大間町公民館を建設せよ

答弁 旧大間病院跡地に(仮称)大間コミュニティセンターとして計画中です

4 福祉センターを建設せよ

答弁 公民館、福祉保健機能を備えた(仮称)大間

コミュニティセンターを計画中です

5 400mトラックを持つ陸上競技場を建設せよ

答弁 建設計画はない

6 民生委員活動を徹底せよ

答弁 大間町では現在17名が委嘱されているが、周知方を検討する

7 役場の土日の電話対応はテープではだめ

答弁 システム上、変更が不可能であるため、2824番の電話の周知

をきちつとする

8 下手町営住宅を建設せよ

答弁 今後計画的に改善を図っていく

9 通院バスの便数を増やせ

答弁 便宜は図りたいが2回の運行は現時点で無理

10 くるまつ、大間病院を渡り廊下でつなげ

答弁 交付金施設であり、許可されない

11 環境マネジメントを習得させよ

答弁 費用対効果を考慮し返上するケースが増えている

12 道づくり計画を策定せよ

答弁 平成13年に道路整備10か年計画を策定、毎

年見直ししながら推進している

13 大間町第6次産業化サポートセンターを設置せよ

答弁 現在ある施設を利用できる。更新や新規導入については、その都度判断する

14 下手長後宅裏に側溝200m入れてほしい

答弁 地元の意見を聞きながら調査、検討する

15 大間観光案内所をつくれ

答弁 大間崎レストハウスを継続する

16 大間崎観光客の人数は

答弁 観光協会に業務委託しており、その中で、入り込み等の調査も実施しております

17 大間まぐろの放射能測定器を設置せよ

答弁 下北ブランド研究所が実施している

18 1種農地にエネルギーギート区の申請をせよ

答弁 1種農地の国対応は法律の改正がない限り許可されません。国の動向を注視していく

19 まぐろ冷凍庫を建設せよ

答弁 まぐろ冷凍庫は町内業者が保有しているの町として建設はしない

20 電波の多重周波数で獣害を寄せ付けない装置を導入せよ

答弁 今後の研究成果に期待したい

21 無料駐車場を設置せよ

答弁 開発センター向かい

は将来役場建設予定であり、恒久的な駐車場としては考えていない

22 ツルアラメ焼酎をつくれ

答弁 過去の昆布焼酎を試験事業で行ったが、なかなか採算にのらない

23 大間町議会一般質問を無線放送せよ

佐井村では個別受信機に送信していると聞いている。町では現在対応できないが、無線放送施設の改修の際に、議会と協議する

24 平成24年度核燃料物質等取扱税交付金の1億4473万円の使い道は

答弁 町道大間奥戸線整備事業、小型動力ポンプ付積載車と水槽付ポンプ車の購入、防火水槽新設整備事業、大間病院外壁等改修工事、残りは公共施設維持運営基金として積み立てる

一般質問



小林和美 議員

質問

平成15年3月に焼却処理を終えた焼却炉が、放置されてから10年を経過している。

建屋は鉄骨、煙突は鉄製であり、塩害の激しい大間に鉄製の構造物が長年放置されているのは腐食等を考えれば危険極まりない。

更には、大間特有の強風で、付帯構造の倒壊と言う最悪の事態も想定される事から、即急かつ具体的な対策を講ずるべきと考えるが、又、以前に廃炉となり更に年数を経過している大間平の炉は、どのように管理がなされるのか、今後の処理をどのように考えているのか、併

せてお聞きしたい。

答弁

「現在、ごみ処理施設からのダイオキシン等による有害物質の発生は確認されておらず、したがって人身への影響はない」と言う事を、最初にお伝えしておきます。

ごみ処理施設は、将来的に解体すべきと考えておりますが、解体撤去を行うためには、ダイオキシン類など有害物質等の事前調査や、除染工事が必要で

又、解体撤去後にも管理計画書の作成や、管理費用が発生します。

設についての撤去費用は、2億円以上と見積もっています。

大間を含め、多くの自治体が、撤去費用の捻出に苦慮し、国に補助制度の確立を求めています。今現在、制度事業として、環境型社会形成推進交付金があります。利用する条件として撤去後の土地を再利用する事とあり、跡地が活用できる土地になるのか、どう活用できるのかも含め、検討していかなければならない。

大間平の施設については、コンクリート製の煙突なので、状況等調査した上で適切な処理、管理をしながら進めていきたいが、まずは、国の制度の確立を求めていきたいので、ご理解いただきたい。

再質問

煙突が問題です。ばい煙がへばり付いているので有害とあるが。

大間平・内山の旧ごみ焼却炉は？

答弁

手を掛けてしまうと飛散する可能性が強くなりますので、慎重に対応していきたい。現在は、人体に影響を及ぼす状況にない事を、再度言うておきます。

質問

最終処分施設についてですが、相当量の漂着物が積まれている悪臭を放っている。基本計画では最終処分場に一時仮置きし、むつ市の処理業者に委託するところがあるが、未だ相当量の野積み状態で、一時仮置きとは到底理解できない。

今後も処理業者に委託するならば、当初予算で予算措置をし、適正な時期にむつ市に運搬すべきではないか。又、ここで最終処分するならば、処分場の高上げや、搬入物に覆土するなど、残余容量拡大に即急に着手するべきでは。

答弁

埋め立て最終処分地の残容量は、35500m³で、災害廃棄物や、漂着海藻ごみ等の仮置き場として確保している。ゴモの処理ですが、施設管理者として次の処理場まで運ぶ費用等について県と協議をしてきましたが、現在は町が負担しなければならぬ。そのため、重量の減量を努め、費用の軽減を図っています。

只、新規に同等の施設を造るとすると、10億以上の事業費が必要になるため、現在の施設の嵩上げを前提に、計画を進めていきたい。国、県は環境等の問題で、非常に厳しいことを自治体等に求めてきます。今後も協議を重ねながら対応して参りたいので、ご理解いただきたい。



報告

10月1日、大間町役

場周辺は、原子力発電所建設中止の横断幕が掲げられ、反対のシュプレヒコールが叫ばれるなど、騒然とした雰囲気の中で、大間原子力発電所対策特別委員会が開催された。

町側から町長・副町長・教育長・担当課参事。出席議員は議長を含め9名（1名欠席）電源開発株からは北村



雅良代表取締役社長・菊池現地本部長・浦島所長以下多数。

傍聴席側を見渡せば、今まで経験した事のないほどのカメラの数。

冒頭、北村社長から昨年の3月11日から中断していた工事の再開が告げられた。

「**工事を再開いたしません**」カメラのシャッター音とフラッシュで、

後の言葉が聞き取れなかった位すごかった。

今、原発再稼働反対、建設反対が正義で、賛成は悪という風潮が国全体を覆っている

る中での発言は重い。

だが、議会広報紙が何故こうも原発の事を取り上げるのか、疑問に思いませんか。

理由は簡単。

昭和51年4月28日、大間町商工会から大間町議会に対し、「原子力発電所新設に係る環境調査」実施方請願書

が提出され、同年6月24日定例町議会で請願が採択された。俗に言う「**政治主導**」である

が、大間原子力発電所建設の長い歴史が始まった日でもある。

議会が行政を突き動かしてから8年後の59年12月18日、大間町議会は、原子力発電所の誘致を「**決議**」した。

請願を採択してから36年、議員の姓名は変われど、政治主導を進めてきた「**道義的責任**」は変わらない。

否、福島原発の現状を見るにつけ、責任の重さは益々大きくなっていなければおかしい。

会社側もこれまでの議会の動き、過程を尊重し、全ての報告事項は先ず大間町議会、次に県庁と、大変な気の使いようで、事の重大

さを実感させられる行動と言えよう。

今後、議会としては、会社側と直接話が出来る立場を最大限に活用し、国が定める安全対策よりもっと厳格な安全対策を講じてもらい、住民の安全・安心の確立を迫っていくべきことが急務である、今一番必要なことだろう。

尚、「原子力発電所関連記事は、今後も継続して掲載していきたいと考えております。」

(記)加藤

編集後記

大間原発のなりゆきを心配しておりましたが、去る10月1日、電源開発北村社長が来庁し、町・議会に工事再開の報告があった。

議会から、安全で住民に信頼される原発であってほしい旨を伝え、社長も安心安全な原発を約束された。

本格的工事は、来春くらいからになるのでは。

工事完了後の運転開始については、国の厳しい審査を受けた後でなければ、運転はできないものだとされている。

私は、今後まだまだ二転、三転あるかと思う。

(記)竹内

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

千代谷 誠

委員

竹内 弘

宮野 昭一

小林 和美

野崎 信行